

職リハ学会通信

No. 182 2025 年 6 月発行

目 次

新会長あいさつ	2P
2025 運営理事・幹事名簿	3P
第 52 回兵庫大会のお知らせ	4P
運営理事会報告	5P
委員会報告	7P
事務局からのお知らせ	7P

このたび、日本職業リハビリテーション学会の会長を拝命いたしました眞保智子（しんぼさとこ）です。日本職業リハビリテーション学会は、1971年に日本職業リハビリテーション研究会として誕生し、以来半世紀にわたり職業リハビリテーションに関する国内唯一の学会として、多くの先達が障害のある方の就業・就労に関わる政策や実践に関わる研究を積み上げてきました。このような貴重な学会の歴史を引き継ぎそして発展させていく重責に身が引き締まる思いです。

会員のみなさまも感じておられるように、障害のある方の働く環境は大きく変化しています。雇用の場においては、障害者雇用が進展し、法定雇用率が上昇する状況にあります。大都市圏の障害者雇用労働市場では「売り手市場」の様相を呈しています。また多様な障害のある方が雇用という働き方を目指すことができるようになったことは朗報ですが、共に働く環境を整え、おひとり、おひとりに合った雇用管理の方法の蓄積はまだ道半ばではないでしょうか。一方で地方では、地域の中小企業で担い手が不足し、廃業により働く場はむしろ狭まってきています。福祉に目を転ずれば、障害のある方の雇用に向けての支援を行う就労移行支援の偏在やA型事業所の経営の課題、就労系サービスを担う人材の不足など課題は少なくありません。

学会には現状を取り巻く課題の解決に寄与し、障害がある方が働くことを通じての社会参加をより進めていくことに期待が寄せられていると思います。6月7日に実施した政策委員会主催のシンポジウムでも議論された「(仮称) 障害者就労支援士」の実施に向けての取り組みもその1つです。公的な検定試験によって、職業リハビリテーションに携わる就労支援専門職の知識レベルを認定する「(仮称) 障害者就労支援士」は、厚生労働省が示した資格創設のロードマップ(イメージ)で今年度以降モデル問題作成委員会が設置されることが示されています。検定試験が社会的な信頼を得て、取得した資格が

評価されるためにはエビデンスに基づいた試験の実施が必要となります。今後、試験基準の策定やモデル問題の作成に学会員が携わり、検定試験の質を担保する役割を果たしていくことが求められると思います。

学会として今後とも現場で行われている貴重な実践をエビデンスに基づき蓄積し、障害のある方の働く場の質の向上に寄与していくために、職業リハビリテーションに携わる就労支援専門職の方に一人でも多く学会にお入りいただき、学術研究の活動はもとより、実践を通じての日々の苦労や成功経験をともに語り合える貴重な「場」としてより活性化していくことも大切だと思います。今後は社会的責任を果たしていくために、昨今のコンプライアンスや消費税に関わる制度改正などの状況を鑑み法人化を検討していくことも視野に入ってくるかもしれません。

学会という自由闊達に仲間とともに議論ができるこの貴重な「場」を将来に繋げていくために、「温故知新」の故事のごとく、先達たちが築いてきた普遍的な知を学びながら時代の変化に応じた新たな知を導き出す活動を学会員のみなさまと一緒に一歩ずつ続けていきたいと思っています。今後とも引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。



(会長 眞保智子)

2025 年度 運営理事・幹事名簿

役 職	氏 名	所 属
運営理事 (会長)	眞保 智子	法政大学
運営理事 (副会長)	小川 浩	大妻女子大学
運営理事 (事務局長)	野崎 智仁	国際医療福祉大学
運営理事	池田 浩之	兵庫教育大学
運営理事	伊藤 丈人	障害者職業総合センター
運営理事	大川 浩子	北海道文教大学
運営理事	柴田 珠里	横浜日吉就労支援センター
運営理事	清野 絵	国立障害者リハビリテーションセンター
運営理事	星明 聡志	ジョブジョイントおおさか
運営理事	前原 和明	秋田大学
運営理事	八重田 淳	筑波大学
運営理事	矢野川 祥典	福山平成大学
運営理事	山口 明乙香	高松大学
運営理事	行實 志都子	神奈川県立保健福祉大学
運営理事	若林 功	国際医療福祉大学
監事	朝日 雅也	埼玉県立大学
監事	倉知 延章	就労支援センターウィズダム

第 52 回兵庫大会のお知らせ

8 月 22 日・23 日開催の第 52 回兵庫大会は、現在、参加者申込 160 名、研究・実践発表 21 件、自主ワークショップ 9 件、ポスター発表 32 件(うち英語 7 件)と、たくさんの方にお申し込みをいただいています。今回は大会企画のプログラム内容をご紹介します。

■ 大会企画のプログラム内容

井澤大会長を含む 11 名の実行委員で大会企画のプログラムを検討してまいりました。どの企画もかなり豪華な内容になりましたので、内容をお伝えさせていただきます。

基調講演：「インクルーシブとアセスメントを考える～行動分析学からのアプローチ～」をテーマに大会長の井澤先生がご講演して下さる予定です。

基調シンポジウム：「これからを切り拓くために-就労支援の歴史と知識の活用-」をテーマに豪華な登壇者とともに開催します。現在の就労支援はニーズに応じた様々な支援機関がありますが、当たり前のようにあるこの仕組みは、何もなかった時代に奮闘して下さった先人の方々の実践があったからこそでもあり、そんな歴史を振り返りこれからに活かすための企画となっています。

認知行動療法学会との共催企画：実行委員の池田さんが企画され、「職業リハビリテーション領域における認知行動療法の実践と発展について」がテーマ。同じ時期に開催される認知行動療法学会でも職リハ学会との共催企画が予定されています。

震災から 30 年、未来へ繋ぐ就労支援：震災当時を知る方と今を担う方の両方に登壇いただき、「地域と支援のこれから」を登壇者同士で語っていただく内容です。

大学生へのキャリア支援：「行政・企業・大学・支援機関の協働による障がいのある大学生へのキャリア支援～機会提供の場づくりがもたらすアセスメント～」をテーマにして、大学生を取り巻く環境と就労支援のワークショップを開催します。行政、企業、大学、支援機関の協働の実践をお伝えいたします。

中小企業の実践：「中小企業が考える自立とやりがい」をテーマに、兵庫県中小企業家同友会の実践者を招いたディスカッションを開催します。メイン会場のホールで行いますので、中小企業での障害者雇用や地域連携に関心のある方はぜひご参加ください。

アセスメントの基本と実践：障害者の職業生活を支える「アセスメント」をテーマに、実践と理論の両面から考えるセッションを開催します。就職前にどんな情報を集め、どう環境調整していくか、実践に役立つ視点と学会ならではの知見が交差する時間になるかと思います。

医療リハと職業リハ：医療の現場と就労支援の現場それぞれの立場から、それらをどうつなぎ、実践しているのか。そのリアルな実践と課題を共有し、現場で抱える悩みに一歩踏み込むヒントを探る企画になっています。

就労選択支援：島根大会に続き、兵庫大会も最後のプログラムは「就労選択支援」です。鈴木専門官も交えて、地域の実践と前原先生のご研究を絡めて開催したいと思います。

プログラムは、これ以外にも学会企画や自主ワークショップなど盛りだくさんです。ぜひ、多くの方に参加していただけることをお待ちしております。

(実行委員長 星明聡志)